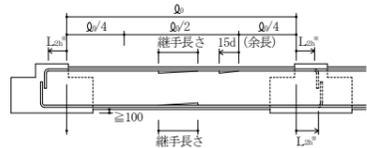
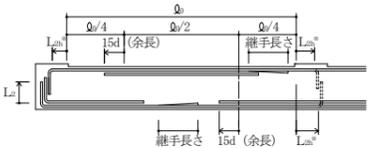
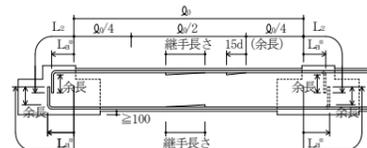
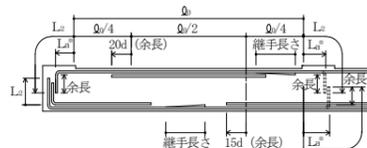


| 訂正箇所 | 誤 | 正 |
|----------------------------|---|---|
| <p>1.2 基礎梁主筋の継手、定着及び余長</p> | <p>(a) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長</p>  <p>図1.3 主筋の継手、定着及び余長 (その1)</p> <p>(b) 連続基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長</p>  <p>図1.4 主筋の継手、定着及び余長 (その3)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 印は、継手及び余長位置を示す。 2. 破線は、柱内定着の場合を示す。 <p>※ L_c を確保出来ない場合は、標仕(5.3.4(d)(3))によることができる。</p> | <p>(a) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長</p>  <p>図1.3 主筋の継手、定着及び余長 (その1)</p> <p>(b) 連続基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長</p>  <p>図1.4 主筋の継手、定着及び余長 (その3)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 印は、継手及び余長位置を示す。 2. 破線は、柱内定着の場合を示す。 <p>※ L_a の数値は原則として柱せいみの3/4倍以上とする。</p> |